

〔科目名〕 経営学基礎論 a	〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 専門科目
〔担当者〕 藤井 一 弘 FUJII Kazuhiro	〔オフィス・アワー〕 時間: 最初の講義で提示。 場所: 608号室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>経営学で学ぶ「経営(management)」とは、広い意味では「扱いにくいモノや事柄を首尾良く取り扱うこと」である。その点では、世の中のあらゆる(と言っていいほどの)モノや事柄が、経営される必要がある。大学での経営学関係の科目では企業の経営が取り上げられることが多いが、企業に限らず、自治体や非営利組織(NPO)、病院や教育機関、そして家庭でさえ(これらは、しばしば「組織体」と一括して呼ばれる)も、「経営」なくしては、成り立たない。</p> <p>経営学基礎論では、それらの組織体を、「経営する(首尾良く取り扱う)」ための基本的な考え方を学習していく。組織体、とりわけその具体的な形としての企業は、「ヒト、モノ、カネ、そして情報」という構成要素からなると言われるが、いくら優秀なメンバーや豊富な資金があっても、それらの構成要素がバラバラでは、良い成果に結びつくことはない。より良い成果を得るには、構成要素が統合・調整(これこそが「経営」)されることが必須要件となる。</p> <p>この統合・調整が行われる「場」を「組織(正式には、公式組織)」であると考えて、そこから様々な経営に関わる事柄を見ていくのが、「現代組織論」と呼ばれている考え方であり、この講義もその考え方に基づいている。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつかか〕 <p>・〔科目の概要〕で述べたように、「組織(公式組織)」という場を通じて、「ヒト、モノ、カネ、情報」といった企業をはじめとする組織体の構成要素が調整されていくのだが、そこで調整される構成要素の性質に応じて、調整の具体的な方法は異なってくる。それぞれの構成要素の性質・特質を詳しく見て行き、その性質・特質に応じた調整の具体的な方法を考えるのが、経営学関連の他の科目と言える。たとえば、ヒトであるなら「人事管理論」等、カネであるなら「財務管理論」等、モノであるなら「生産管理論」等、といった具合である。「会計」は、それらの構成要素がどのように動いているのかを、主に(あくまで「主に」だが)、その動きと表裏一体である貨幣の動きにそって記録することと言える。その記録が正確であればあるほど、それに基づいてより良い調整の仕方を見つけることができるようになる。会計学関連の科目は、このようにこの科目と関係している。</p> <p>・上に述べたように、本学で開講されているほとんどの科目と関連している科目であり、その点で、まさに「基礎」として学ぶ必要があると言えるが、学習面以外でも次のように言える。すなわち、社会に出てからにとどまらず、学生生活を送っていくうえでも、ヒト、モノ、カネ、情報を首尾よく活用してこそ、生活の質を向上させることができる。クラブ活動やボランティア・サークルなどを思い浮かべてほしい。このように、経営学の考え方は、より良い生活を送るために誰もが身につけておくべき「教養」でもあるという点で、日々の生活にも結びついている。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>・経営学で用いられる言葉の多くは、日常的に用いられる言葉でもある。しかし、経営学の脈絡で学問的に語られるときには、日常的な感覚にとどまっていたら理解できない場合が、多々ある。したがって、経営学で用いられる多様な言葉と、その意味内容、そしてそれらの使用方法を十分に理解することが、さしあたりの目標となる。</p> <p>・上記した経営学的な概念を、社会で起こっている経営上の諸問題に当てはめて考えられるようになるのが、次の目標である。これは授業で学習した内容の例を、自分自身で探し出せるようになる、ということでもある。</p> <p>・経営上の諸問題に対する答えが1つであることは、実は、全くと言っていいほど、ない。そのような問題を経営学上の概念を用いて、多様な角度から考えたうえで、自分なりの考えを導けるようになるというのが、ここでの最終的なねらいである。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>・この科目を本学で担当して13年目となる。これまでの「授業アンケート」結果への応答は、学内で見るようになっていたので、関心のある履修者は閲覧してほしい。</p> <p>・「改善・工夫」に関連して、アンケートの「自由記述欄」への応答の一部を、ここで繰り返しておく。や「説明のわかりやすさ」や「経営学の基本をしっかりと学べる」という意見が多い一方で、5 年ほど前から「内容が理解しにくい」という相反する声も散見されるようになってきた(件数も漸増傾向である)。ただし、大学での学修は、講義を聴くのは必要条件ではあるが、十分条件ではない(踏み込んで言うと、講義を聴いただけで十分に理解できる科目はない)。そのうえ、一般的に「経営学」という分野は、大学1年次生には、なじみのうすいものかもしれないので、分かりにくかった点があれば、授業後すぐに質問するなどして、疑問点の解消に履修者自身も努めてほしい。そのための協力は惜しまないつもりである。</p>		
〔教科書〕 庭本佳和／藤井一弘編著『経営を動かす―その組織と管理の理論―』文真堂、2008年。		

<p>〔指定図書〕 必要なときに提示する。</p>	
<p>〔参考書〕 必要なときに提示するが、上記の〔教科書〕の各章末の「参考文献」は意識しておくこと。</p>	
<p>〔前提科目〕 なし</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末に定期試験を行う。 ・原則として、15 回目の授業内に、中間のまとめのテストを行う。ただし、テストはレポートに替えることもありうる。 ・上記の「まとめテスト」に替わる「レポート」以外のレポートを課すことは、今のところは考えていないが、その場合は掲示によるものとし、提出されたレポートは加点要素とする。 ・その他に、小テストを行う可能性がある。行う場合は、時間の余裕があるように、授業内で予告し、また、掲示する。 ・以上の要素を最終評価に、どのように反映させるかについては、「中間のまとめのテストないしレポート」の予告時に授業内(さらに掲示)で通知する。 	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケールは、「学生便覧」の「成績評価」の通りである。 ・高い評価を得るためには、要求された課題(試験であれば、設問)に対して、講義した内容にそって、もれなく、かつ理路整然とした理解が示されている必要がある。講義内容を消化した上で自分自身の考えを展開できている場合は、プラスアルファ(加点要素)となる。 	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>この科目に限らないこととは思うが、大学での学修は、授業内容を知識として「覚えていく」のではなく、授業内容自体を、むしろ「自ら考えていく」ための材料として、考える力を身につけ、伸ばしていくことを目的としていると言えるだろう。その目的の達成につながるように、すなわち考える材料としての「経営学基礎論」になるような授業を行っていきたい。多人数の講義形式になると思うが、できる限り質疑応答も交えて、双方向のコミュニケーションができるように心がけるので、受け身の受講態度ではなく、積極的に授業に出席・参加してほしい。</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学とは、どのような性格の学問か。 内 容:特に、企業の経営に注目して、「企業」、「経営」、そして「事業」といった類似の言葉に注目しながら、「経営」の意味内容について考える。 教科書・指定図書:『教科書』序章</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学の学問としての歴史(1) 内 容:経営学が、なぜ、学問として成立する必要があったのか。その歴史的背景とともに、学問として成立した当時の「経営理論」について説明する。 教科書・指定図書:ノート講義</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学の学問としての歴史(2) 内 容:前回に引き続いて、その後の経営学の発展の中から、主に「人間関係論」という経営理論について説明する。 教科書・指定図書:ノート講義</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代組織論の成立 内 容:第2・3回の講義で説明した経過を経て生まれて、現代の経営学における中心的な考え方となっている「現代組織論」の概要について論じる。 教科書・指定図書:『教科書』第1章およびノート講義</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代組織論(バーナード理論)の概説(1) 内 容:現代組織論の基盤となっているバーナード理論の全体像と、その中の「人間論」と「協働論」の大枠について説明する。 教科書・指定図書:『教科書』第1章およびノート講義</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):現代組織論(バーナード理論)の概説(2)</p> <p>内 容:前回に引き続いて、その「組織論」と「管理論」の概略を論じる。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第1・2章およびノート講義</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(1)</p> <p>内 容:公式組織存続のための、管理職能の1つである「モチベーション(動機づけ)」を取り扱う。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第2章およびノート講義</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(2)</p> <p>内 容:公式組織を存続させるための管理職能の1つである「意思決定」について説明する。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第2章およびノート講義</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(3)</p> <p>内 容:公式組織が存続していく過程で必要とされる組織構造(コミュニケーション・システム)の設計について考える。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第2章</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(4)</p> <p>内 容:前回で学んだ「組織構造」が、良好に機能するために不可欠な「組織における権限・権威」の問題について考える。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第2章</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(5)</p> <p>内 容:組織体の長期的存続のために必要とされる「道徳的」リーダーシップについて論じる。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第2・3章およびノート講義</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):バーナード理論における「管理論」の詳説(6)</p> <p>内 容:リーダーシップについての一般的な理解の仕方と比較しながら、バーナードの言う「道徳的リーダーシップ」の特徴を考える。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第3章およびノート講義</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営と社会の関わり(1)</p> <p>内 容:企業は本来、社会にとって有用な財やサービスを提供することによって、社会の役に立つために存在する。ところが、社会から非難される行動をとることもある。これを経営学はどう考えてきたか。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第11章</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営と社会の関わり(2)</p> <p>内 容:企業は社会から非難されないようにするのみならず、より積極的に社会の状態の改善に貢献する必要がある、という考え方がある。このことについて「道徳的リーダーシップ」と関連づけて論じる。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第12章</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):前半のまとめ</p> <p>内 容:第14回までの授業を振り返るとともに、確認のためのテストを行う。</p> <p>教科書・指定図書:</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):バーナード以降の現代組織論の展開</p> <p>内 容:20世紀半ば以降、近年までの現代組織論の展開を俯瞰的に見る。</p> <p>教科書・指定図書:ノート講義</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学における環境への注目(1)</p> <p>内 容:経営学において「環境」という側面が注目されるようになった経緯と、そこから成立した経営学上の考え方について論じる。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第4章およびノート講義</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学における環境への注目(2)</p> <p>内 容:経営における「環境」のとらえ方が変容していく過程について説明する。</p> <p>教科書・指定図書:ノート講義</p>

第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学における文化への注目(1)</p> <p>内 容:1980 年前後から経営学において「文化」という概念が注目を集めるようになった。その歴史的背景と、そこでの「文化」のとらえ方について論じる。</p> <p>教科書・指定図書:ノート講義</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学における文化への注目(2)</p> <p>内 容:前回を受けて、企業文化論ないし組織文化論と呼ばれる経営学における考え方について論じる。</p> <p>教科書・指定図書:ノート講義</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学における情報・知識への注目(1)</p> <p>内 容:経営における情報の重要性は言うまでもない。経営学はそれをどのようにとらえてきたかについて見ていく。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第7章</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学における情報・知識への注目(2)</p> <p>内 容:経営学における情報についての議論は、よりステップ・アップして知識についての議論へと深まっていた。この経緯を見る。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第9章</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学における学習への注目(1)</p> <p>内 容:経営における情報や知識についての議論とも関連しながら、組織における、ないしは組織の学習という考え方が浮上してくる。このことについて、第22回まで3回の講義で詳しく見ていく。</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第8章およびノート講義</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学における学習への注目(2)</p> <p>内 容:同上</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第8章およびノート講義</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学における学習への注目(3)</p> <p>内 容:同上</p> <p>教科書・指定図書:『教科書』第8章およびノート講義</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):経営学の「地域」への適用</p> <p>内 容:「地域経営」という言葉が、しばしば聞かれるようになっている。地域とは何か。そして、それを「経営する」とは、どのようなことなのか、について講義する。</p> <p>教科書・指定図書:ノート講義</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域経営の要点</p> <p>内 容:「地域を経営する」とは、地域を活性化することでもある。そのためには、どのようなことが必要となるのか、について考えていく。</p> <p>教科書・指定図書:ノート講義</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):地域経営の現状と課題</p> <p>内 容:地域の経営は、必ずしも順調になされているとは言えない。若干のケースを見るとともに、その中から、今後、応答しなければならない課題について見ていく。</p> <p>教科書・指定図書:ノート講義</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):NPO(非営利組織)とソーシャル・エンタープライズ(社会的企業)</p> <p>内 容:地域経営において大きな役割を果たすことを期待されている NPO と社会的企業について、営利企業との差異に注目しながら、それらの意義について講義する。</p> <p>教科書・指定図書:ノート講義</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):後半のまとめ</p> <p>内 容:第16回以降の授業の要点を振り返る。</p> <p>教科書・指定図書:</p>
試験	春学期 期末定期試験